名古屋城三の丸遺跡 R5. 発掘通信

2023. 8. 10.



7月22日(土)に地元説明会を 行いました。尾張藩家老渡辺家と 横井家の屋敷地で確認された近世 の遺構・遺物について紹介しまし た。酷暑の中、約40名の方がお越 しくださりました。ありがとうご ざいました。

説明会で配布しました資料の データは、愛知県埋蔵文化財セン ターホームページからダウンロー ドできます。ぜひ、ご覧ください。

http://www.maibun.com

◆調査範囲の北西部・西部 Ab 区◆

7月の発掘通信では、近世武家屋敷の井戸について紹介しました。今回は、武家屋敷の庭園に設 けられた池の遺構と下面で見つかった戦国時代屋敷地の堀を紹介していきます。

下の写真は、Ab 区北部の空撮写真です。真ん中の方にある2つの円形の凹みが近世井戸の遺構で す。常滑窯製品の井戸筒を積み重ねてあり、結局、それぞれに4段と5段(以上?)を確認しました。







◆調査範囲の南部 Ac 区◆

東端付近で大小の土坑が重複するゴミ穴が検出されました。 大量の瓦と常滑窯製品(赤物)、ほか植木鉢や擂鉢、灯明皿、 花瓶など陶磁器類が出土しています。 (梶田真由・武部真木)

下面の調査では、戦国期の堀を数ヶ所で検出することができました。調査が終了した北東部の Aa 区では、断面が V 字状になる「薬研堀」の東西方向の堀と、より大型で深さが現地表から 4.5m 以上と考えられる堀を確認しています。

北西部の Ab 区でも 3 ヶ所で検出することができました。 左写真は東西方向の堀の北側の壁面です。熱田層を掘り込んだ急傾斜の面をなしています。幅は 12m 程度の規模となるかなり大型のもので、Aa 区から続く大型の堀と繋がると想定されます。左下写真は Ab 区の南端付近で検出された堀です。武家屋敷方形区画の北東角にあたる部分と考えられます。深さは 2m 以上、幅が 5m 以上あります。下写真は近代の遺構を中心に撮影したものですが、奥の西壁面に V 字状の堀の断面 (白線の箇所) が見えます。幅は約 6 m の東西方向の堀です。





近代の遺構も見つかっています。 三和土で固められた範囲を掘ると下には花崗岩の板材が3枚並んで敷いてあり、蓋をした状態でした。恐る恐る石を外すと、漆喰の井戸枠が現れました。

今回の調査で発見された井戸7基のうちで、戦国時代の堀の範囲に重複して造られたものは近世で3基、近代で2基があります。台地上にある三の丸の範囲では、井戸を掘る場所の選定にはかつての大型の堀が関連しているようです。



公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24 http://www.maibun.com 調査支援



https://shimadagumi.co.jp